

平成14年度自然体験活動実績

富澤まり

平成13年度より引き続き、小・中学校における自然体験活動に対して、プログラムの提供及び実施活動を行ったので報告する。

自然体験活動実績

4月から12月末までの合計で59校8,144人の利用のうち、何らかのプログラムを利用したのは約7割の41校5,988人にのぼった(表1)。昨年の同時期の集計結果と比較すると、全体で20校、1,300人の減少である。プログラム利用率は変化がなかった。

学年別でみると、小学校では、1、6年生の利用が多く(図1)、中学校では1年生の利用が多かった(図2)。中学校の学年別利用割合は昨年と同じ傾向だった。しかし、小学校では、昨年度はどの学年もまんべんなく利用していたのに対し、本年度は校外活動をする学年が偏ってきたことがうかがわれる。

当園が提示したプログラムの利用については(表2)、昨年同様オリエンテーリングの人気が高かった。

なお、利用校が皆無だった(利用把握が出来なかった)プログラムにミニ落ち葉図鑑作りと園内散策、落ち葉のクラフト、季節を感じる体験がある。が、これらのプログラム内容をアレンジし、学校独自で実施したケースがあるように見受けられた。

学校からの依頼で行なった例としては、中学校で、職業についての総合学習と関連づけて、「植物公園で行っている仕事について」「どのような勉強をすれば植物公園で働くことができるのか」といったテーマで職員が話

をすることがあった。

尚、昨年度から自然体験学習基礎講座を開講し、自然体験活動指導者に対し有効に植物公園を利用してもらえるよう情報提供を行なっている。本年は昨年度に本講座を受講した教員の利用もみられるようになった。このような活動が定着しつつあることを感じる。

プログラムについて

昨年度の自然体験活動の利用状況をふまえ、本年度のプログラムに改良を加えた。改良点は、①利用の少なかったメニューや事前準備に手間が掛かりすぎるものを削除した、②ボランティアや愛好会などの活動と協力できるものやワークシート利用や事前学習により、効果的に

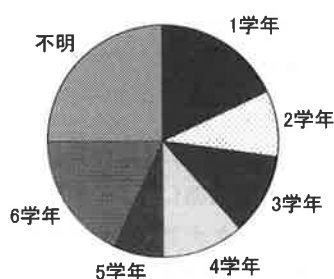


図1. 学年別利用割合 (小学校)

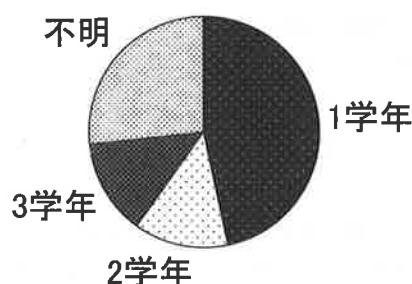


図2. 学年別利用割合 (中学校)

表1. 平成14年度自然体験学習実績 (平成14年4月1日~12月20日)

年間	オリエンテーリング		植物教室		特になし		その他のプログラム		合計件数(のべ)	合計校数(実数)	人数(実数)	プログラム体験校数	
	(校)	(人)	(校)	(人)	(校)	(人)	(校)	(人)				(校)	(人)
小学校	7	1,190	2	209	11	1,542	16	2,361	36	31	4,835	20	3,293
中学校	6	1,347	1	275	4	442	10	1,365	19	15	2,802	11	2,360
養護学校	0	0	0	0	3	172	2	77	4	5	249	2	77
大学	0	0	0	0	0	0	1	25	1	1	25	1	25
その他	4	107	1	22	0	0	5	222	10	7	233	7	233
計	17	2,644	4	506	18	2,156	34	4,050	70	59	8,144	41	5,988

その他のプログラムの内容(校数、人数とも)のべ

小学校…(春) キクづくり(1校69人)、スケッチ(1校205人)、清掃ハイキング(1校500人)、草笛(3校247人)、大温室のガイドツアー(1件36人) ガイドボランティアによる園内解説と散策(1校68人)

(秋) 大温室のガイドツアー(3校258人)、草笛(2校198人)、どんぐりこまつくり等(2校168人)、スタンプラリー(1校513人)、落ち葉拾い(1校109人)、どんぐりの解説(1校98人)、葉拓画しおりづくり(1校60人)、独自(1校115人)、

中学校…散策(2校570人)、草笛(2校、203人)、大温室のガイドツアー(2校、203人)、パウチ制作(2校196人)、植物のスケッチ(1校150人)、植物公園の仕事についてお話(1校43人)、

注) 合計件数(のべ)とは、プログラムの件数をもとに合計したもの。

ひとつの学校が2つのプログラムを行った場合、2件と数えている。「特になし」も含めている。

表2. 当園提示プログラム利用校数

プログラム名	平成14年度 実績(校) A	平成13年度 実績(校) B	A-B	
①オリエンテーリング	17	23	-6	
②植物教室	4	9	-5	
③草笛の体験	7	6	1	
④園内ガイドツアー	大温室のガイドツアー	6	2	4
	サボテン温室のガイドツアー	0	0	0
	花の進化園のガイドツアー	0	0	0
	ロックガーデンのガイドツアー 樹林観察園のガイドツアー	0	0	0
⑤ミニ落ち葉図鑑作りと園内散策	0	0	0	
⑥どんぐりや木の葉の解説	1	2	-1	
⑦落ち葉のクラブ	0	2	-2	
⑧ネイチャーゲーム	0	新	0	
⑨葉拓画づくり	1	新	1	
⑩季節を感じる体験、植物ビンゴ	ワークシート配布のみ	新	0	
からだのものをさしてはかろう				
合計	36	44	-8	

園を利用できるものを追加した、の2点である。具体的には、腐葉土づくり、ケナフの紙すき体験、草木染め等を削除し、葉拓画づくり、ネイチャーゲーム、ワークシート配布（季節を感じる体験、植物ビンゴ、からだのものをさしてはかろう）を追加した。

プログラム利用状況について

全体の利用校数が減少しているにもかかわらず、愛好会による草笛の体験やガイドボランティアによる大温室のガイドツアーは利用が増加している（表2）。

ボランティアという形で、たくさんの大人が子どもたちと一緒に活動するというスタイルが受け入れられているものと思われる。ボランティア活動の副産物として、いくつかの良い点がある。ひとつは、ボランティア活動を子どもたちに理解させることで、感謝の気持ちを教えることができることである。次に、その活動に対する礼状や作文は、ボランティアの励みにもなっている。このように、ボランティアを導入することで、職員だけではできないサービスを提供することができるのは、大変好ましいことと思われる。

さらに、園内での屋外ガイドボランティアが充実しつ

つあるので、今後は屋外活動を一緒に行いたい、という学校が増加すると思われる。春に小学校1年生が屋外ガイドを体験しているが、ガイドの説明や実際の植物を触ったりする体験にとっても喜んでた。この際、1年生68人に対しガイド5人が対応する事で、各児童に説明をゆきわたらせる事ができた。従って、屋外での体験には、十分な数の大人が必要であると思われる。屋外ガイドは、受け入れが可能な範囲で、プログラムに加える予定である。

利用数では横ばいであるが、秋のテーマとしてどんぐりは依然人気がある。数には表れないが、小学校からの問い合わせや子どもへの人気はどんぐりがとても高い。児童用のワークシート等の充実を図り、体験活動を支援したい。

新規プログラム（葉拓画づくり、ネイチャーゲーム、ワークシート配布）の効果はなかなか出てこないが、今後定着するにつれ件数も増加すると思われる。

以上をふまえ、今後の課題としては、園内外の活動団体との協力強化、学校独自での活動を応援するワークシート、解説板などの充実が挙げられる。

自然体験実施校へのアンケート

当園で11月11日に自然体験活動を行なった伴東小学校6年生51人に対し、アンケートを行なった（図3、表3）。当校は1日に2つのプログラム（葉拓画しおりづくり、大温室のガイドツアー）を行なった。

尚、本活動には、ガイドボランティア2人の他、葉拓画しおりづくりには植物公園植物友の会ボランティア3人が参加し、合計5人のボランティアが指導にあたった。

アンケートの結果、葉拓画しおりづくりでは、73%の児童が「上手にできた」と答え、90%の児童が「とてもおもしろかった」もしくは「おもしろかった」と答えている。上手にできなくても「おもしろかった」と感じる児童が多い事がわかる。「必ずしも体験活動が成功しな

表3. 自然体験活動についてのアンケート

メニュー		はい(人)	いいえ(人)
葉拓画	上手にできた	34	14
	おもしろかった(普通含む)	51	0
大温室のガイド	理解できた	49	2
	おもしろかった(普通含む)	49	2

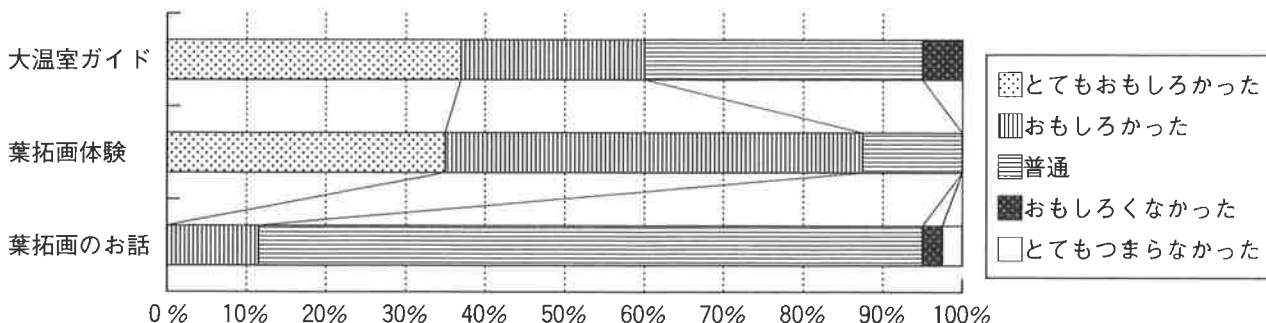


図3. 自然体験活動の内容についてのアンケート



写真1、2 葉拓画しおりづくりの様子（伴東小学校6年生）

くてもおもしろさを感じることができる」という結果は、昨年の中学生のケナフ紙すき体験での調査結果と一致する。体験活動を調整する立場としては、非常に勇気付けられる結果である。

大温室のガイドツアーでは、95%の児童が「話の内容を理解できた」と答え、60%が「おもしろかった」、35%が「ふつう」と答えている。「話の内容が理解できなかった」とする児童も、アンケート用紙には「思い出に残った植物」として食虫植物、オオオニバスなどの植物をあげている。理解できなかったと答えつつも、きちんと観察をしている事がうかがわれる。

最後の感想には、「もっと葉拓画しおりづくりの台紙が大きいほうが良かった」（4人）「大温室で知らない植物を見ることができて楽しかった」（10人）という積極

的な意見がみられた。

まとめ

自然体験活動事業がはじまった昨年度に比べ、指導者側も当園側も体制が整ってきた。本事業の趣旨にあわせると、今後小・中学校の自然体験事業としての大幅な利用増加等は見込めない。しかし、土・日曜日のPTC活動や子供会、グループでの利用など利用者の広がりがみられる。今後は、充実度の高い体験ができるよう、園内外の活動団体との協力強化、ワークシート、解説板などの充実により、内容を高めてゆきたいと思う。

参考文献

富澤まり：平成13年度学校教育支援実績、広島市植物公園栽培記録、第23号（2002）

Agave開花記録

藤井葉子

ミダレユキ (*Agave filifera* Salm-Dyck) が開花したので報告する。

本種はメキシコ原産。ロゼット径40~50cm。葉は細長く、扁平で剣状、オリーブ色で光沢があり、葉縁に細長い白糸状の繊維をつける。花は緑色を帯びているが後に栗色になり、穂状花序につく。

開花株はサボテン温室東側入口に向かって右手の屋外に植えられたもので、2002年6月下旬から7月下旬にかけて開花した。地際より花茎の先端までの高さは290cm。花茎基部の周囲は17cmであった。

参考文献

岸 密晴 1988. 園芸植物大辞典1.p24. 小学館.

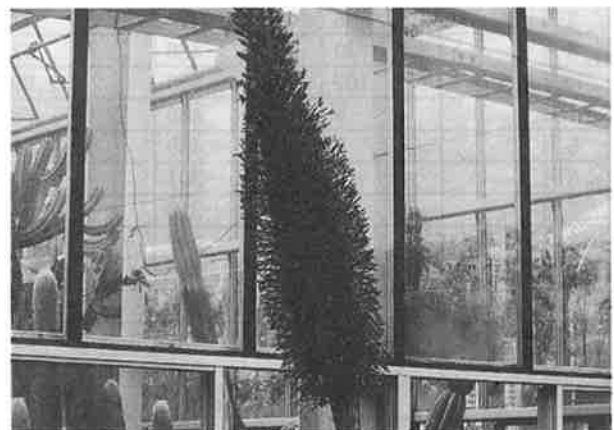


写真. ミダレユキ (2002年7月6日撮影)